

令和 6 年 5 月 25 日現在

機関番号：14501

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2018～2023

課題番号：18KK0008

研究課題名（和文）多言語多文化芸術運動としてのトビリシ・アヴァンギャルドの歴史的資料調査と考察

研究課題名（英文）Tbilisi avant-garde as a multilingual and multicultural art movement: research and examination based on historical materials

研究代表者

増本 浩子（Masumoto, Hiroko）

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：10199713

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,700,000円

研究成果の概要（和文）：ジョージアでのアーカイブ調査で、20世紀初頭にトビリシに滞在したロシア・アヴァンギャルド芸術家たちに関する貴重な資料が見つかった。これらの資料を分析することによって、ロシア未来派の詩人たちがトビリシでグループ「41°」を結成した事情や、このグループの主要メンバーだったイリヤ・ズダニエヴィチが後にシュルレアリストとなる過程を跡付けることができた。また、作家・批評家ユーリ・デーゲンが残した遺稿なども見つかった。彼はトビリシで国際的芸術家交流の中心的人物だったが、その後の政治的情勢によって忘却されてしまった人物で、彼の生前の著作や遺稿をまとめた著作集を出版し、新たに見つかった資料を広く公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ジョージアでのアーカイブ調査によって見つかった、トビリシ・アヴァンギャルドに関する貴重な歴史的資料をまとめ、詳細な注や解説を付けた資料集全2巻を出版し、これまで読むことのできなかった希少な資料を広く一般に公開することができた。これらの資料を使って、トビリシという「周縁の地」で展開された芸術活動が国際的アヴァンギャルド芸術運動の中で重要な役割を果たしていたことを跡付けた本研究は、これまででもっぱらパリやモスクワ、ベルリンといった「文化の中心地」で展開されたアヴァンギャルド芸術運動を対象としてきた従来の研究に新しい観点を提供するものであり、国際的にも大きな意味をもつ。

研究成果の概要（英文）：Archival research in Georgia has uncovered valuable material on Russian avant-garde artists who lived and worked in Tbilisi at the beginning of the 20th century. By analyzing these materials, it has been possible to trace the circumstances in which the Russian Futurist poets in Tbilisi formed the group "41°" and the process by which Ilya Zdanevich, a key member of this group, later became close to Surrealism. Manuscripts by the writer and literary critic Yuri Degen were also found and studied. He was a key figure in Tbilisi's international art scene but was later forgotten due to political circumstances. We published a commented collection of his writings and the newly found materials, making his work widely available.

研究分野：ドイツ文学

キーワード：トビリシ・アヴァンギャルド 多言語多文化主義 コスモポリタニズム 亡命文学 アーカイブ調査
ユーリ・デーゲン イリヤ・ズダニエヴィチ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

20世紀初頭に起きたアヴァンギャルド芸術運動は、ヨーロッパ各地に急速に広がった。その中心地として名前が挙げられるのは通常パリ、ベルリン、モスクワのような大都市であり、トビリシ(ジョージア)がこのリストに名を連ねることはほとんどない。しかし、実際にはトビリシは国際的アヴァンギャルド芸術運動にとって非常に重要な都市だった。ロシア帝国崩壊後、共和国として独立を果たしたジョージア(旧グルジア)は、もともと多言語多文化状況にあったコーカサス地域に比較的安定した民主主義国家が成立したことによって、世界大戦と革命の混乱期に多くの芸術家の避難場所、いわば「芸術家のオアシス」となったからである。

トビリシで展開された芸術活動がアヴァンギャルド芸術運動の中で重要な位置を占めていたにもかかわらず、トビリシ・アヴァンギャルドに関する研究は十分には行われてこなかった。その理由として以下の2点が挙げられる。

(1)「芸術家のオアシス」の短命さ：独立からわずか3年後の1921年にジョージアは赤軍に占領され、ソ連はアヴァンギャルド運動を弾圧して、芸術家の多くが亡命を余儀なくされるか粛清されるかした。

(2)資料への近づきにくさ：当時芸術家たちが創造したもの(作品、機関誌、マニフェスト、パンフレット、ポスター等)は数が少ない上に散逸している。その上、ソ連時代にはアヴァンギャルド芸術に関して文書館等で調査・研究することはイデオロギー的な理由から困難であり、ソ連崩壊後も不安定な政治情勢のために現地での調査が難しかった。

近年になってようやくトビリシ・アヴァンギャルドについての研究が始まり、Nikolskaya, T. *Fantastic City: Russian Cultural Life in Tbilisi, 1917-1921* (2000) と Ram, H. *Decadent Nationalism, "Peripheral" Modernism: The Georgian Literary Manifesto between Symbolism and the Avant-garde* (2014) が注目を集めた。しかし、これらの研究は当時のトビリシで展開された多様な芸術活動のごく限られた特定の一面しか扱っていない。ロシア人研究者の Nikolskaya は研究対象をロシア人芸術家に限定しており、アメリカ人研究者の Ram はジョージアをロシア帝国の属国とみなして、ポスト・コロニアリズム的な観点から分析を試みているにすぎない。ジョージア本国には、Tsipuria, B. *Georgian Modernism: Relocating Georgian Culture* (2016) などの研究があるが、その対象はジョージア人芸術家に限定されている。本研究開始当初は、歴史的資料を用いたトビリシ・アヴァンギャルドに関する包括的・体系的な研究は、まだまだたく行われていない状況だった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ジョージアの研究者と協力しながら、ほとんど手つかずのまま各所に散逸している資料を発掘・調査することにより、当時のトビリシの多言語多文化状況に立脚したアヴァンギャルド芸術の全体像を把握し、国際的アヴァンギャルド芸術運動の歴史に占める位置と影響関係を明らかにすることだった。具体的には、歴史的資料の調査・分析に基づいて以下の4つの問いに答えることを試みた。

(1)トビリシ・アヴァンギャルドの重要な担い手となった芸術家に関して、どのような資料が残されているか。

(2)各国(特にロシア、ドイツ、ジョージア)出身の芸術家は、国籍や文化の違いを超えて展開されたトビリシ・アヴァンギャルド芸術運動の中でどのような相互関係にあったか。

(3)トビリシ・アヴァンギャルドにはどのような特殊性があるのか。また、そのような特殊性をもつにいたった理由は何か。

(4)トビリシ・アヴァンギャルドは国際的アヴァンギャルド運動の中でどのような位置を占め、どのような影響を与えたか。

3. 研究の方法

本研究は、次のような手順で行われた。

(1)トビリシのアーカイブ(現代歴史博物館、文学芸術アーカイブ、レオニゼ文学博物館、ジョージア国立国会図書館など)に所蔵されている歴史的資料を体系的に調査し、そこからアヴァンギャルド運動に関係するものを抽出した。その際、多様な芸術活動のうち、特に言語資料として残されているもの、すなわち文学作品と芸術論を中心に扱った。

(2)調査した資料をもとに、各国出身の芸術家たちがナショナリティを超えてどのようなグループを形成し、どのような形式で協働し、どのような成果を残したかを確認した。効果的に研究を遂行するために、トビリシ・アヴァンギャルドにおいて特に重要となる3つの文化圏、すなわちロシア、ドイツ、ジョージアの文化的背景をもつ芸術家に焦点を絞った。

(3)歴史的資料に基づき、トビリシ・アヴァンギャルドの特殊性について考察した。その際、トビリシがアヴァンギャルド芸術運動の中心地となったヨーロッパの大都市から遠く離れた周縁的な位置にあると同時に、ヨーロッパとアジアの接点でもあるという地理的・文化的な条件がどのような意味を持っていたかということも合わせて考察した。

(4) トビリシ・アヴァンギャルドが国際的アヴァンギャルド運動の中で占める位置と影響関係を明らかにすることを試みた。特に、ソ連占領後にヨーロッパに亡命した芸術家に注目し、彼らがトビリシで展開した芸術論と実践がどのような形で国際的アヴァンギャルド運動に貢献したかについて考察した。

ジョージア側の中心的な共同研究者はアレクサンダー・カルトゥージア教授(トビリシ国立大学、専門はドイツ語学)で、1990年代から2000年代初頭にかけてジョージア国立国会図書館長と教育大臣を歴任した人物であり、教授の協力によって本研究に携わる研究者グループが訪問すべき施設と関係者へのアクセスが可能になった。日本側の研究者グループは増本浩子(ドイツ文学・演劇)、楯岡求美(ロシア文学・演劇)、八木君人(ロシア・アヴァンギャルド)、ヴァレリー・グレチュコ(アヴァンギャルド芸術理論)の4名から構成されており、それぞれの専門分野に応じて資料を調査した。また、歴史的資料の調査・分析にあたっては、アヴァンギャルド研究の第一人者であるコルネリヤ・イーチン教授(セルビア・ベオグラード大学)の協力も得た。

4. 研究成果

ジョージアでのアーカイブ調査で、20世紀初頭にトビリシに滞在したロシア・アヴァンギャルド芸術家たちに関する興味深い資料(「41°」グループのマニフェスト、芸術雑誌『フェニックス』、『オリオン』、『アルス』、『クランティ』に掲載された詩人イリヤ・ズダニエヴィチとジョージア人芸術家とのあいだの論争など)が見つかった。これらの資料を分析した結果、次のようなことが明らかになった。

(1) ロシア革命直後にジョージアに避難してきた人々の中には、ロシア・アヴァンギャルドの芸術家が数多く含まれていた。一方、当時のジョージアは芸術がめざましい発展を遂げた時期にあり、トビリシではいわゆる「グルジア・モダニズム」を代表する詩人たちが結成したグループ「青い角」が活躍していた。その主要なメンバーはパウロ・ヤシュヴィリ、ティチアン・タビゼなどである。彼らの多くにはフランスやドイツへの留学経験があって、ヨーロッパの象徴主義から強い影響を受けていた。モスクワやペテルブルクから避難してきた芸術家たちがトビリシでこの「青い角」の芸術家たちと出会い、密接に協働して互いに影響を与え合った結果、さまざまな芸術的傾向・スタイルの混合が行われた。

(2) ロシア・アヴァンギャルドの芸術家たちにとってトビリシ滞在は大きな転換点となり、その後の表現様式を大きく変えた。活動の場を突然モスクワやペテルブルクといった「文化の中心地」からトビリシという「周縁の地」に変えざるを得なかったことが、思いがけず次のような創造的可能性を生み出したのである。

それまでばらばらに活動していたロシア未来派の詩人アレクセイ・クルチョーヌイフ、イリヤ・ズダニエヴィチ、イーゴリ・テレンチエフ、ニコライ・チェルナフスキーらが「41°」という芸術グループを結成した。このグループはロシア未来派にとって非常に重要な役割を果たすことになった。

トビリシでは、ロシア未来派の詩人たちはごく自然に地元ジョージアの象徴主義詩人たちと接触した。モスクワやペテルブルクにおいては未来派の詩人たちと象徴主義の詩人たちは、その美学上の意見の相違から激しく論争し対立していたが、トビリシにおいては生産的な対話をもつことができた。通常なら協働することのない未来派の詩人と象徴主義の詩人がトビリシでは同じ芸術クラブ「ファンタスティック・カフェ」に出入りし、共同で討論会や朗読会を企画して、最終的には共同で作品集を出版するに至った。

ロシアの首都の単一言語状況から離れてコーカサスの多言語状況に置かれたロシアの詩人たちは、言語の音声的側面に以前にも増して注目するようになり、「ザウミ(超意味言語)」の理論を飛躍的に発展させた。コーカサス諸語が「ザウミ」という新しい言語の創造に大きく貢献したのである。彼らの言語実験においては、ロシア語の文の中にジョージア語やアルメニア語等の単語がそのまま使われることもあり、また、現実に存在するジョージア語等の単語に音は似ているが、実際には存在しない新しい語が使われることもあった。

ペテルブルクとモスクワでは未来派の詩人たちは周縁的な位置しか占めず、その活動も保守的な文壇によって阻害されていた。一方、トビリシでは彼らは大都会からやってきた芸術家として一目置かれる中心的存在となり、活動の可能性が大きく広がった。トビリシでは「中心と周縁」の関係が二重に存在していた点が注目し得る。ペテルブルクとモスクワというロシアの新旧の首都(すなわち「文化の中心地」)では、未来派の詩人たちは周縁的な位置しか占めていなかったが、トビリシという「周縁の地」では中心的な役割を果たしたからである。このような立場の変化が彼らの創作活動を大いに活性化させた(トビリシ時代はロシア未来派の詩人たちにとって最も生産的な時期となった)。彼らの旺盛な創作活動はジョージアの象徴主義詩人にも影響を与え、中には未来派の特徴を帯びる者(タビゼ)も出現した。

(3) 「41°」グループのメンバーが創作した作品には「非合理」と「無意識」と「偶然」に対する関心が見られる。彼らはロシア時代からこれらの概念に興味をもっていたが、トビリシでゲオルギ・ハラゾフから理論的な基盤を得ることになった。ハラゾフはもともと数学者だが、

文芸評論家・詩人でもあった人物で、ドイツとスイスに留学した後トビリシに帰り、「41°」グループの芸術家たちとの討論や講演会などを通じて、精神分析学（特にユングの理論）とその文学への応用について伝えた。ズダニエヴィチは精神分析学から大きな刺激を受け、その創作スタイルを大きく変えて、後にパリでシュルレアリスムとなる素地ができた。

（４）ズダニエヴィチはトビリシ滞在中にタイポグラフィデザインを学び、以後、タイポグラフィは彼の作品の重要な要素となった。トビリシを離れてパリに移ってからタイポグラフィはズダニエヴィチにとって中心的な関心であり続け、パブロ・ピカソやマックス・エルンストラとともに芸術作品としての書籍を作り出すまでになる。そもそもズダニエヴィチがトビリシでタイポグラフィに興味をもったのは、タイポグラフィで、詩人として「41°」グループのメンバーでもあったチェルニャフスキーの影響だったと考えられる。

（５）トビリシ・アヴァンギャルドはロシアの芸術家のみならず、ドイツ語圏の芸術家にも大きな影響を与えていたことが明らかになった。具体的には以下のとおりである。

「グルジア・モダニズム」の詩人グループ「青い角」のメンターの存在だったジョージアの国民的作家グリゴール・ロバキゼは、ジョージアがソ連に併合された後にドイツに亡命して、1931年から1945年までベルリンに滞在した。ドイツ語が堪能だったロバキゼは、ドイツでは創作言語をジョージア語からドイツ語に切り替え、ドイツ語作家として活躍して、ドイツ語圏の文芸批評家たちの注目を集めた。ロバキゼの作品はジョージアの伝統的な風俗習慣や、ソ連併合後のジョージアの状況などをテーマにしており、ドイツ語圏の読者はロバキゼの作品を通じてジョージアへの関心を高めた。

ジョージアを舞台にしたブレヒトの戯曲『コーカサスの白墨の輪』（1944/45年執筆）は、1920年代に非常に活発だったロシア／ソ連とドイツの芸術家交流なしには成立し得なかった作品で、特に作家・理論家セルゲイ・トレチャコフから大きな影響を受けている。ブレヒトが師と仰いだトレチャコフはドイツ語とロシア語のバイリンガルで、1920年代にジョージア・フィルム・スタジオと北コーカサス地方のホルホーズで働いた経験があった。特にホルホーズでの経験については、ドイツ語で『農場のヒーローたち 集団社会をめぐる闘い』（1931）というルポルタージュ風散文作品を書いている。ブレヒトはトレチャコフの影響のもとに、短編小説『アウグスブルクの白墨の輪』（1940）の舞台をコーカサス（ジョージア）に移し、ホルホーズのエピソードを加えたと考えられる。

ジョージアでのアーカイブ調査によって見つかった貴重な歴史的資料をまとめ、詳細な注や解説を付けた資料集全2巻を出版した。それぞれの内容は以下のとおり。

第1巻： [Yuri Degen, Essays. Critical articles. Reviews.](#) (ed.). [Belgrade: Logos, 2023.](#) (Yuri Degen. Essays. Critical articles. Reviews).

ドイツ系ロシア人作家・批評家ユーリ・デーゲンの出版物や遺稿をまとめた著作集。デーゲンはトビリシを活躍の場とし、1920年前後の時代には国際的芸術家交流の中心的人物としてよく知られていた。ジョージアがソ連に併合された後、反ソヴィエト活動の罪に問われて逮捕され、1923年に銃殺されたため、その後はデーゲンの名が公の場で語られることはなく、忘却されてしまった。

第2巻： [Yuri Degen, 1918-1922.](#) (ed.). [Belgrade: Logos, 2024.](#) (Russian literary and art criticism in Georgia. 1918-1922).

1918年から1922年の間にトビリシで創刊された文芸雑誌・文芸新聞の文芸批評欄の復刻。これらの雑誌・新聞は短命に終わったために、その後の時代にはタイトルのみ知られており、その内容の詳細は不明だった。現物はごく少数しか残されていないが、ジョージア国立国会図書館に所蔵されていた。

これらの資料集はアヴァンギャルド研究関連の著作を多く扱っている出版社から出され、欧米のアヴァンギャルド研究者たちの注目を集めている。

以上述べてきたような研究成果は新たな研究課題を生み出し、ロシア・アヴァンギャルドとドイツのモダニズム芸術との関係について探る基盤研究（B）「モスクワ・ベルリンを結ぶ革新的芸術理念 セルゲイ・トレチャコフを中心に」（2022-2025、研究代表者：増本浩子）につながった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 八木君人	4. 巻 特別号
2. 論文標題 文化のナショナリティについての覚書	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 チェマダン	6. 最初と最後の頁 8-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 増本浩子	4. 巻 63
2. 論文標題 われらが英雄ソソ・ロバキゼ プレヒトの『コーカサスの白墨の輪』とソ連併合後のコーカサス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ドイツ文学論攷	6. 最初と最後の頁 71-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 楯岡求美	4. 巻 20
2. 論文標題 ロシア・ソ連研究から考える『分断と共感』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 「共感」と「分断」（東京大学文学部ホームカミングデー）	6. 最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名	4. 巻 35
2. 論文標題 :	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Slavistika	6. 最初と最後の頁 103-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00080008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 14件）

1. 発表者名 増本浩子
2. 発表標題 ジョージアとドイツ語文学 ソ連併合後のコーカサスをめぐって
3. 学会等名 長崎大学多文化社会学部主催連続セミナー「多様性と統一のあいだ ヨーロッパ を問い直す」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Valerij Grecko
2. 発表標題 The Baazov Family and the Transformation of Georgian Jewry in the 20th Century
3. 学会等名 "Jews along the Silk Road" organized by Centre for East European and International Studies, Berlin (オンライン参加) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増本浩子
2. 発表標題 コーカサスとドイツ語文学 ジョージアのドイツ語作家グリゴル・ロバキゼについて
3. 学会等名 神戸大学人文学研究科主催国際ワークショップ「他者とつながること」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 楯岡求美
2. 発表標題 20世紀文学としてのソ連文学史 再考のための一助として
3. 学会等名 社会主義リアリズム研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroko Masumoto
2. 発表標題 Mountains as a Literary Topos
3. 学会等名 International Conference: The Dynamics of Cultural Processes between Center and Periphery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kumi Tateoka
2. 発表標題 Georges Pitoeff () and Modernism in Theatre
3. 学会等名 International Conference: The Dynamics of Cultural Processes between Center and Periphery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoto Yagi
2. 発表標題 Ilia Zdanevich 's "Vsecestvo" and Phonograph /
3. 学会等名 International Conference: The Dynamics of Cultural Processes between Center and Periphery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Valerij Grecko
2. 発表標題
3. 学会等名 International Conference: The Dynamics of Cultural Processes between Center and Periphery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八木君人
2. 発表標題 音声の複製技術時代におけるロシア・アヴァンギャルド詩
3. 学会等名 日本ロシア文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Valerij Grecko
2. 発表標題 Multilinguality in the Work of Ilya Zdanevich: The Caucasian Text
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Alexander Kartoziya
2. 発表標題 The Fantastic City in the first Third of the 20th Century: The Linguistic Shaping and Re-shaping of the Georgian Cultural Scene
3. 学会等名 INTERFACEing 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naoto Yagi
2. 発表標題 1910-20 :
3. 学会等名 INTERFACEing 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Valerij Grecko
2. 発表標題 :
3. 学会等名 INTERFACEing 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kumi Tateoka
2. 発表標題 Folk Rituals in Georgia between the Past and the Future: Representations of Georgian Rituals in Tretyakov's Film Scripts
3. 学会等名 INTERFACEing 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 (ed.)	4. 発行年 2023年
2. 出版社	5. 総ページ数 509
3. 書名	

1. 著者名 (ed.)	4. 発行年 2024年
2. 出版社	5. 総ページ数 240
3. 書名 . 1918-1922.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	Grecko Valerij (Grecko Valerij) (50437456)	東京大学・教養学部・特任准教授 (12601)	
研究分担者	八木 君人 (Yagi Naoto) (50453999)	早稲田大学・文学学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	楯岡 求美 (Tateoka Kumi) (60324894)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	Kartozia Alexander (Kartozia Alexander)	トビリシ国立大学・教授	
研究協力者	Icin Kornelija (Icin Kornelija)	ベオグラード大学・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 The Dynamics of Cultural Processes between Center and Periphery	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際シンポジウム「ソ連映画アーカイブの現在」	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 INTERFACEing 2023	開催年 2023年～2023年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ジョージア	トビリシ国立大学	ジョージア国立国会図書館	ジョージア国立博物館	
セルビア	ベオグラード大学			
ロシア連邦	ロシア舞台芸術大学	ロシア国立人文大学		
ドイツ	ポツダム大学	ベルリン自由大学		
アルメニア	アルメニア国立科学アカデミー			